



パンクロックに憧れて. . . 。

1)勝手にしやがれ セックスピストルズ

編集者生活を 27 年間やってきた。見出し（タイトル）は常に気になる。誰かのモノを盗んだり、盗まれたり……。中でも忘れられないのがいくつかあって

「頼む、ジョン・ライドン。私と一緒に死んでくれ！」

小田島久恵

は秀逸中の秀逸として記憶している。ロッキン・オンの見出しだった。2004 年だったか・・・セックスピストルズ再結成、来日（ライブのため）のインタビューか記者会見の記事だった。

僕は結婚するとほぼ同時にロッキン・オンを買わなくなってしまったので、小田島さんが今も書いているのか、良く知らないのだけど、この見出しにはけっこうたくさんの方がうなずいたり、失笑したりしたに違いない。小田島さん、あなたはすごいライターです！小田島さんが何年生まれなのか僕は良く知らないけれど、1961 年生まれ（今年で 50 歳）で、セックスピストルズの「勝手にしやがれ」が日本で発売された 1978 年に九州の高校 2 年生だった僕にとっては「同時代ピストルズ（パンク）体験」というのはおおよそこんな

感じでした。

「こんばんは、渋谷陽一です」・・・ざっざっざっ（軍靴の音）→ギターリフで始まる「さらばベルリンの灯」のイントロ。へええ、これがパンクロックかあ。新しいような、古いような…。

1978年に「洋楽」と言えばNHKFMラジオの「渋谷陽一サウンドストリート」（たしか平日。他にもDJは沢山いたように思う）と、地方局（NHKFM大分ですね）の土曜日午後のだらだらとしたリクエスト番組の2本が基本。この少し前に、民放AMの「オールジャパンポップストウエンティ」という（一時期みのもんたがDJだった！）番組があったが、確か民放のほうは中学生ぐらいで打ち切りになったか、OBSの編成に入らなくなってしまった。高校生の情報源として渋谷陽一のサウンドストリートは極めて重要だったのだ。

さて。実際のところ、パンクロックは「キワモノ」というのが大方の見方だった。突然変異としてイギリスに登場した「世も末ですな」的風俗がパンクロックなのであって、パンク＝生きざまみたいなことを言う人が次々に出てくる感じになるのは、このずっとあと。セックスピストルズの評価が定まって、実はあれって名盤だよね…ということになり、「安全」になってからだと思う。何と言っても、

当時は女子＝ベイシティローラーズ 男子＝キッス／エアロスミス
／レインボウ。であって、高校生バンドのヒーローはリッチー・ブ
ラックモアとかジェフ・ベックだった（断言）。「アナーキー・イン・
ザ・UK」も「ゴッド・セイブ・ザ・クイーン」もまともにとりあげ
たのは「サウンドストリート」ぐらいしかなかったのだ。

ネットも CD 視聴器もないので、「聞いて良かったら自分も買う」
には「友人から借りる」かロック喫茶でリクエストする（ロック喫
茶についてはあとで説明しますね）しかない。アルバムは当時 2000
数百円で、高校生には勇気のいる買い物だったのだ。僕のもらって
いたこずかいには周囲より、少し少なくて、レコードにはほぼ使えな
かった。アルバムを 20 枚持っている奴はなかなかのロックファンで、
30 枚はかなりの金持ち。50 枚などという奴（いた）は別世界の住人
（リッチなマニア・・・）であったけれど、どんなマニアであっても「L
Pレコードは財産」だったので、評価の定まらないアタラシイモノ
に大金を出す高校生はいなかった。

内心「カッコいい」と思っているけど、何となく口に出すこともな
く（はばかれるというようなことはなかった。どの道、共有する
ことはできないし・・・という諦めみたいな感じ）、土曜・午後のリク

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。